

食べ物を測定する意味について

何故、食べ物の放射能を測るのか。福島原発事故以降、子どもたちや自分が食べているものにどれほどの放射能が含まれているか、知らないでいることはできないという思いは皆さん、同じだと思います。

福島県を中心として、東日本は広く福島原発事故のセシウム137/134に汚染されてしまいました。それに元からあった、チェルノブイリの汚染、原水爆実験による汚染が加わります。食べ物がどれほど汚染されていると食べないのか。厳密に考えると福島県を中心とした地域の産物はたべられなくなります。一方で、それではその地域の農業はどうになってしまうのかという問題があります。

育て方を工夫してセシウム137/134の含有量がなるべく少なくなるよう、努力をされている農家があります。そこでは出荷する生産物の放射能測定をして、表示して出荷しているところもあ

ります。でも、表示をすると逆に消費者は買ってくれないということも聞きました。あると分かっているより、あるかないか分からないほうが良いという人もいます。しかし、私はそのようには考えたくありません。いかにセシウム137/134を減らす努力をされたのか、だからこそ私たちも測定してその努力の成果を分かりたい。それが分かった上で、その農家とつながりたいと思うのです。

測定する意味は、その食品の汚染度を知るだけではなく、福島県を中心とした地域の状況と、その地域の農家がどれほど努力をしているかを知る手がかりです。そこから生産地域と私たち食べる側のつながりが生まれてくる出発点のひとつとなるのではないかと思います。

測定チーフ 内藤 誠

長野県産りんごの共同測定

ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、前年度暮れに測った長野県産（小売店からの情報）密入りふじから、7.50ベクレルのセシウムが検出されました。これは少なからぬ反響を呼び、あるびれおでももう一度測ってみたいと、長野県の同じ地方の2か所の果樹園から産直でりんごを入手、参加者を募りました。

共同測定には、15人が参加、持ち込みのりんごも含め3検体の測定となりました。

結果は、1検体のみセシウム134だけが下限値(0.68)を超える0.70±0.41という数値でした。しかし、半減期が30年のセシウム137が検出されていないのに、半減期が2年のセシウム134だけが検出されることはありえません。従って今回は、セシウム

134も137も検出下限値(それぞれ0.6~0.7)を超えるものはなかったと判断しました。

ではあの「検出」は何だったのか？ 共同測定は、当然にも、答えを出してはくれません。が、この食材は大丈夫だろうか、いつも安穏としていられなくなってしまった私たちに、集うこと、測ること、そして安心や決断の材料を与えてくれます。

「この食材を共同測定したい」というご要望がありましたら、お気軽にご連絡ください。あるびれおではいつでも共同測定を受け付け、みなさまへの呼びかけをお手伝いします。

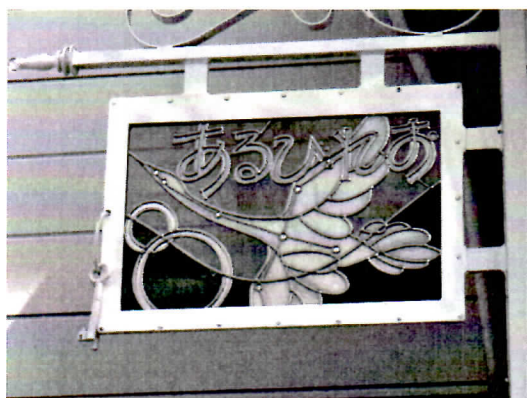
測定員 吉村俊子

*** 測定情報などを知るには ***

共同測定や公開講座の開催など、あるびれおの活動の最新情報は、あるびれおホームページの「測定ブログ」「お知らせ」欄で、随時お知らせしています。また、ホームページの更新はツイッター、フェイスブックでもご案内し、sns*(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)を通じて多くの方にあるびれおのことを知っていただきたいと考えています。ぜひ、アクセスしてみてください。

ホームページ : <http://west-tokyo-albireo.com/>
ツイッター : @albireo-pub
フェイスブック : <https://facebook.com/west.tokyo.albireo>

(フェイスブックはツイッターとの連動で運用しています)



発行: 放射能測定を考える会・西東京

連絡先: 〒188-0013 西東京市向台町4-17-8-201
にしとうきょう市民放射能測定所 あるびれお

TEL: 070-5073-4356